

「社会福祉専門職が行う権利擁護支援の方法（権利擁護ソーシャルワーク）」②**－権利擁護支援の可視化を目指して－**

○日本福祉大学大学院 小島 佳子 (7866)

湯原 悦子 (日本福祉大学社会福祉学部・3745)、高柳 雅仁 (日本福祉大学大学院・7857)

キーワード：権利擁護支援、ソーシャルワーカー、積極的権利擁護

1. 研究目的

近年、社会福祉の現場では、「権利擁護」の重要性が強調されてきている。岩間（2012：119）は、「権利擁護は、生命や財産を守り、また権利が侵害された状態から救うというだけでなく、本人の生き方を尊重し、本人が自分の人生を歩めるようにするという本人の自己実現に向けた取り組みを保障するものでなければならない」と述べ、更には権利擁護の「内容を明確にすることは、権利擁護の担い手のあり方にも深く関わることになる。」とも述べている。しかし、現実的には法律専門職と違い福祉専門職には、実践をしつつも拠り所となるものがなく、“職人芸”の域に留まっていると言えなくもない。そのために、福祉専門職に求められるはずの権利擁護支援のあり方が一貫せず、単なる調整役やトラブルシューターになってしまっている現実もある。

本研究では、以上を踏まえ福祉専門職が行う権利擁護のあり方の拠り所となる一つの方法を提案したい。

2. 研究の視点および方法

研究の対象は、〇県で権利擁護支援の一つの方法である成年後見活動を行っている社会福祉士である。権利擁護支援ソーシャルワークの実践構造を把握することに焦点を置き、調査手法としてエキスパートインタビューを用いた。そして実際に行っている事例のソーシャルワークをケアマネジメントプロセスにあてはめて考察するものである。

2013年7月23日、当該社会福祉士の事務所において、一つの事例について、支援プロセスと何を目標にどのような支援を行うようになったのか、本人にどのような変化があったのか、そして今なお残る課題と消極的権利擁護と積極的権利擁護の視点からの評価などについて、半構造化インタビューを実施した。インタビューデータは逐語録に起こし、ケアマネジメントプロセスの枠組みに沿った事例分析を行い、権利擁護支援が必要な事例のケアマネジメント方法としてまとめた。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針および日本福祉大学大学院倫理ガイドラインに基づき、研究を行った。

4. 研究結果

事例の概要：ダウン症の長男を溺愛し、周りの助言を聞き入れず、敵対関係にしてしまう。自宅は、ごみ屋敷。度々訪問販売の業者から高額な健康器具や健康食品を購入させられており、今後の本人の生活と財産管理について周囲が対応に困り、補助申立がされた。

まず、当該社会福祉士が自身の行う権利擁護支援において大切にしている価値観として、受任した時点で絶対に切れない関係性という事が根底にあるという事と、本人の財産は本人が納得のいくように使う、という事が読み取れた。この前提となる価値観を踏まえ、ケアマネジメントプロセスにあてはめてみた。

1) インテーク

- (1) 周りからの情報をうのみにするのではなく自分の目と耳で確認し本人を知る。
- (2) 本人が必要とする支援を整理して考える。

2) アセスメント

- (1) 関係性を作る。(2) 本人の思いと価値観を尊重する。

3) ケアプラン

ニーズ	長期目標	短期目標
支援者を増やす	本人を取り巻く支援の輪を作る	日常生活の把握を行い見守る
		悪徳業者から遠ざける
		関係者間の連携を図る
本人の思いを代弁する	言うべきことは言える信頼関係を築く	本人のこだわりを理解し、本心を引き出す
		本人が生きてきた歴史から息子への思いの背景を知る
		本人のプライドを守る
	本人の好きにさせる	本人に安心してもらえる財産管理を行う

4) 評価

「消極的権利擁護」(狭義の権利擁護)の面では、悪徳業者の排除や標準的な衣食住の確保ができた。「本人らしい生活」では、息子の事を亡くなくても母親として考え続けることができる生活ができた。「本人らしい変化」では、愚痴を言い合えるようになり、気持ちを交わすことができ、プライドを保ちつつも周囲の支援を受け入れやすくなったことが挙げられた。更には今後のケアプランに繋がる「支援の課題」にまで言及していた。

5. 考察

研究結果から、本人の立場に立ち、本人の大切にしているものを尊重し、理解することが必要であり、時にはぶつかり合いながらも支援のニーズを見つけ、根拠を持って支援することが、自己実現に向けた意思決定支援のプロセスでもあることが示唆された。なお、この様式を用いることは、福祉専門職が自らの権利擁護支援について、一貫した支援を行えるとともに振り返ることもできる一つの方法と考えられる。

(参考文献) 岩間伸之・原田正樹 2012「地域福祉援助をつかむ」有斐閣